1 コーシー・リーマンの関係式

ここでは、コーシー・リーマンの関係式の導出のメモを記述しておく。ある複素関数を $F(z) = \phi(z) + i\psi(z)$ と定義する。この複素関数が微分可能であるとき(正則、解析的)、下式が成立する。

$$\frac{dF}{dz} = \lim_{\Delta x \to 0} \frac{\Delta F}{\Delta x + i\Delta y} = \lim_{\Delta y \to 0} \frac{\Delta F}{\Delta x + i\Delta y}$$
 (1)

これを変形すると,

$$\frac{dF}{dz} = \frac{\partial F}{\partial x} = \frac{\partial F}{i\partial y} \tag{2}$$

となるため,

$$\frac{dF}{dz} = \frac{\partial \phi}{\partial x} + i \frac{\partial \psi}{\partial x} = -i \frac{\partial \phi}{\partial y} + \frac{\partial \psi}{\partial y}$$
 (3)

が成り立つ. 実部と虚部を比較して,下式のコーシー・リーマンの方程式が得られる.

$$\frac{\partial \phi}{\partial x} = \frac{\partial \psi}{\partial y} \tag{4}$$

$$\frac{\partial \psi}{\partial x} = -\frac{\partial \phi}{\partial y} \tag{5}$$

2 インバースタンジェントの微分

ここでは、タンジェントの逆関数の微分の導出方法を簡単に記述しておく.まず $q= an \theta$ とすると、

$$\frac{d}{dq}\tan^{-1}q = \frac{d\theta}{dq} = \frac{1}{\frac{dq}{d\theta}} = \cos^2\theta \tag{6}$$

が得られる. ここで

$$1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta} \tag{7}$$

を利用すると、下式のようにインバースタンジェントの微分が得られる.

$$\frac{d}{dq}\tan^{-1}q = \cos^2\theta = \frac{1}{1+q^2}$$
 (8)